

令和8年度全日本大会候補審判員研修会に参加して 文責(新垣裕己)

令和8年2月23日(月)、沖縄県から4ペア(島尻・比嘉ペア、新垣・知念ペア、坂本・棚原ペア、金城・金城ペア)が、福岡大学にて上記の研修会に参加いたしました。

主な研修内容は、①筆記試験(競技規則問題)、②体力試験(シャトルラン)、③講義の3本柱です。
①筆記試験の合格ラインは85点以上、②シャトルランの合格ラインは男性が77、女性が66となっています。沖縄県が全国で勝つことを目指して、③講義の中で特に、県内レフェリーやチーム関係者の方々と共有したい内容について、以下に報告いたします。

1 審判員と指導者(チーム関係者)と共有したい内容

(1) ウイングシチュエーション

近年、ウイングプレイヤーのシュートに対する防御側プレイヤーの接触には厳しい罰則が与えられている。ハンドボールのイメージを守り、選手の安心・安全を確保するというゲームマネジメントの観点から、特にゴールレフェリーはウイングシチュエーションを注視しなければならない。その際、大切にしたい視点は、「**攻撃側がボールをキャッチした時点での防御側プレイヤーの位置**」を見極めることである。それは、攻撃側がボールをキャッチした際に、オープンスペースがあり、明らかな得点チャンスのシチュエーションであるならば、防御側はシューターと接触すると影響等により8:4(2分間退場)、8:5(レッドカード)もあり得る。それゆえに、**攻撃側がボールをキャッチした際に、明らかな得点チャンスであるならば、防御側は攻撃側との接触を回避しなければならない。**

ウイング シチュエーション

■ 8:4

- 防御側プレイヤーは明らかに遅れて位置を取り、接触する
- スローイングアームに接触する
- 下半身や足を広げ、つまずかせたり、foot on foot の状態となる
- 腰や胴体へ接触する
- 転倒までしないが、部分的に身体のコントロールを失う

■ 8:5 または 8:6

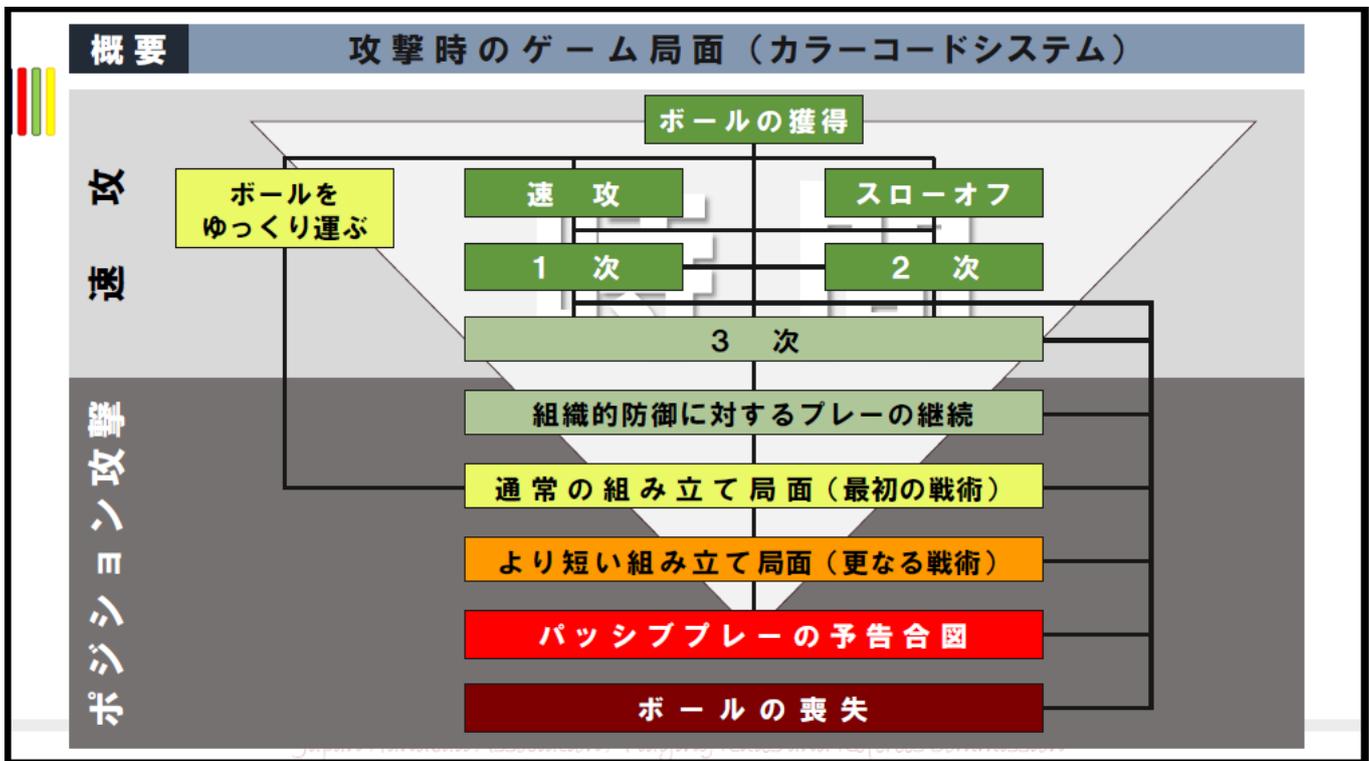
- 高速で相手にぶつかる
- 相手の背後に位置し、スローイングアームを引っかける・引っ張る
- 足を伸ばした状態で踏ませ、足首をねん挫させる
- 完全に身体のコントロールを失う
- 空中にいる相手の足を掴む行為 (報告書を伴う失格)

77th JAPAN HANDBALL CHAMPIONSHIP 第77回全日本ハンドボール選手権大会

令和7年度第77回日本ハンドボール選手権大会審判関係資料より引用

(2) パッシブプレー

パッシブプレーの予告合図後、最大4回のパスでシュートを打たなければならないことから、予告合図を出すタイミングは選手やチームにとって、とても重要である。具体的には、攻撃側がボールを所持しているときに予告合図を出す(ボールが空中にある時に出してはいけない)。特に、**攻撃側の各種スロー後にすぐに予告合図を出してはいけない**(例:より短い組み立て局面において、最低3回はパスをみて、予告合図を出す)。また、今回、パッシブプレーの予告合図を出す基準についての参考資料「攻撃時におけるゲーム局面」が示された。私たちペアは、下の図を参考にし、「速攻が終わったから今から通常局面ね」→「フリースローをとったから短い局面ね」→「パスが3回出たらあげるね」等と、パッシブプレーの基準をインカムで確認し、予告合図を出すタイミングの基準づくりを行っている。



令和7年度第77回日本ハンドボール選手権大会審判関係資料より引用

2 おわりに

本研修会は、「九州が全国で勝つために、日本が世界で勝つために」を合言葉に、レフェリーが「根拠をもって正しく判定」するための充実した研修会となりました。

講師をしていただきました日本協会審判本部長の福島さんをはじめ、九州協会審判長の鶴田さん、浦川さん、堀川さん、私たち4ペアを全国大会候補者として推薦していただいた県協会審判長の前上里さんに感謝を申し上げ、以上、報告といたします。

